Web 年金広報 2025年 12 月号
Vol.153（通巻798号）

発行所 特定非営利活動法人 年金・福祉推進協議会
〒101-0047
東京都千代田区内神田 2-15-9 The Kanda 282 9F
TEL:03-5209-1281 FAX:03-3256-8928
https://www.npo-nenkin.jp
E-mail：info@npo-nenkin.jp

◆コラム◆ 時代とともに【連載 第71回】 山﨑 泰彦

# 戦後 80 年、戦争の惨禍に思う―沖縄

心に刻んでおきたい戦争の惨禍として、祖国防衛の名のもとに、全島が要塞化し、将兵と県民の20万人もが命を落とした沖縄がある。

「・・・一木一草焦土ト化セン　糧食六月一杯ヲ支フルノミナリト謂フ　沖縄県民斯ク戦ヘリ　県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」

沖縄戦の最終局面において、海軍の沖縄根拠地隊司令官であった大田實中将が、自決を前に地下壕から海軍次官宛てに発した電文の末尾である。沖縄県民の献身的な戦いと犠牲の詳細を述べ、後世にわたる特別の配慮を求めた不朽の電文である。旧日本軍への拒絶感が強い沖縄でも、海軍と大田中将だけは格段に評判がよいという。

筆者の沖縄との出会いは、1976年１月、ニュージーランドでのことだった。在職していた社会保障研究所の在外研究の一環として、ニュージーランドの社会保障省、保健省ほか、各地を訪ねた。首都ウエリントンの街中で、日本大使館の広報・文化センターに立ち寄った際、たまたまお会いしたのが職員のオーモンドソン・アキコ（昭子）さん（1930～2021）。上記の大田中将の４女で、広島県呉市のご出身。呉の英連邦占領軍のパイロットであったニュージーランド兵と結婚された戦争花嫁であった。大田中将のことは沖縄返還運動の過程からよく語られていただけに、偶然の出会いに驚くとともに、筆者自身被爆者であることから会話は弾んだ。

アキコさんは、長年にわたる日本とニュージーランドの友好親善に貢献した功績（ウェリントン・ジャパン・ソサエティー副会長）により、2000年11月、日本政府から勲五等瑞宝章を授かっておられる。当時の小渕恵三総理は、アキコさんのことをＮＨＫ・ＢＳの報道でお知りになり、1999年にニュージーランドのオークランドで開催されたＡＰＥＣの際には、多忙な時間を割いてアキコさんに会っておられる。

総理は、早稲田大学の学生時代からたびたび南部戦跡を訪れ遺骨収集に参加するなど、沖縄に特別の思いを持っておられ、沖縄の発展に役立つことを念じて2000年のサミットを沖縄で開催することとされた。総理はそのことを直にアキコさんにお知らせしたかったという。「県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」という大田中将の遺文ともいうべき電文の願いに少しでも応えたいという思いがあったにちがいない。

ニュージーランドでは、老人ホームを訪ねた際、車椅子の入居者の方から片言の日本語であいさつをいただいたことがあった。シンガポールで日本軍の捕虜になったという。国際法規を無視した野蛮な日本軍の捕虜虐待のことを知っているだけに、ただただ頭を下げてお詫びするだけであった。

沖縄には、地上戦にとどまらず、明治の琉球処分、戦後の本土復帰の遅れ、そして今なお米軍基地の過重な負担を負わせている。あわせて、戦争の犠牲者が遠く南半球の国々にまで及ぶことも忘れてはならない。

（参考文献）青山淳平「海にかける虹―大田中将遺児アキコの歳月」ＮＨＫ出版、2003年10月

**山﨑 泰彦**（やまさき・やすひこ）
**神奈川県立保健福祉大学名誉教授**
1945年生まれ。社会保障研究所、上智大学、神奈川県立保健福祉大学を経て、2011年より現職。社会保障審議会委員、社会保障制度改革国民会議委員、社会保障制度改革推進会議委員等を歴任。著書に『社会保障・税一体改革の十年』（社会保険出版社、2021年）、『社会保障―時代とともに』（販売：社会保険出版社、2025年）など。